

日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼人 中原 泉
編集人 ほり・けんろう
発行日 偶数月末日
発行部数 1部10円
定価 1部10円
編集室 〒951-8580
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500

堀 憲郎先生(68回卒) 日歯新会長に内定

十二月二十四日、東京・千代田区の歯科医師会館で日本歯科医師会(ほり・けんろう)先生の会長予備選挙が行われた。開票の結果、六三七票の得票総数のうち、三七二票を得て、堀憲郎氏が次期日歯新会長に内定した。



日歯新会長に内定した新潟県長岡市の堀憲郎先生

三ツ林議員(内科)厚労政務官に就任

生命歯学部内科学講座教授の三ツ林裕巳衆議院議員は、十月七日に発足した第三次安倍改造内閣で、厚労政務官に就任した。三ツ林教授は東京の附属病院副院長を務めた。

辞令

期大学歯科技士科 略歴・昭和51年3月本学附属歯科専門学校技工士科卒業。52年4月同校助手、57年4月講師、平成17年4月東京短期大学歯科技工学科講師を経て、平成27年10月1日 歯学博士 熊澤 康雄 名誉教授の称号を授与する
平成27年12月1日 本学 教授に任命する(東京短 短大准教授 尾崎 順男 修士教育) 尾崎 順男 名誉教授の称号を授与する
平成27年9月1日 歯学博士 吉江 紀夫 名誉教授の称号を授与する

超高齢社会の到来に伴い、歯科医院に来院する認知症患者はますます増え続けていく。歯科医師の認知症へ対応力の向上が急務となっている。

本学では、九月六日に生命歯学部富士見ホールで日本歯科大学主催緊急公開フォーラム「歯科と認知症」を開催した。校友会を中心に四六二名が参加し、会場一階には補助椅子が出て、二階席まで満席となった。

藤井一維新潟生命歯学部

緊急公開フォーラム

歯科と認知症

は、全国で約四六二万人、軽度認知障害、いわゆる予備軍は約四〇〇万人といわれる。六十五歳以上の高齢者では四人に一人が認知症、またはその

知症の関連性をはじめ、認知症の背景疾患として、一番多いアルツハイマー病の正しい理解、治療薬開発の最前線などを医科の立場から解説した。

堀先生は本学歯学部六十八回卒で、新潟県長岡市開業。県歯科医師会専務理事、日歯常務理事、中央社会保険医療協

議会委員、社会保障審議会医療保険部会委員などを務めた。

改革を求める会員の要請を受けて、地域にシフトする医療政策への対応、超高齢社会における歯科医療の位置付け、歯科界全体の活性化、人心の一新を内外に明確に示すこと、歯科界を立て直して信頼を回復することなどを公約に掲げた。地元の新潟県歯科医師会をはじめ多くの県歯から推薦を受けた。

今後は、平成二十八年一月末までに自身をふくめた理事候補者を選挙管理委員会に提出し、三月に開催する臨時代議員会で、代議員の投票による

平野副部長は、新オレンジプランで明確に示された歯科医師の役割や、認知症患者への円滑なケアを行うための対応法などを解説した。

各基調講演では、関本恒夫新潟生命歯学部部長、羽村草生命歯学部部長が座長を務めた。

昼食後、パネルディスカッションが、羽村歯学部長と田中彰新潟生命歯学部口腔科学講座教授をコーディネーターとして開催された。演題ならびに演者は次の通り。

①「認知症サポーターと



富士見ホールを埋めつくした参加者たち



デイスカッションが熱心に行われ、閉会の辞を召す部幸博士生命歯学部教務部長が述べた。

今回の公開フォーラムの記録集は、十二月にメディア株式会社から「歯科と認知症」の書名で刊行されている。A四判一一二ページで、定価は三五〇〇円(税別)。巻末特別付録として、多摩クリニック院長の菊谷武教授による「認知症、要介護高齢者と歯科診療—日本歯科大学で行った厚生労働省研究事業から見たってきたもの—」を掲載している。

三五〇〇円(税別)。巻末特別付録として、多摩クリニック院長の菊谷武教授による「認知症、要介護高齢者と歯科診療—日本歯科大学で行った厚生労働省研究事業から見たってきたもの—」を掲載している。

八重垣教授(東京)科研費審査委員で表彰

生命歯学部衛生学講座の八重垣健教授は、日本学術振興会の科学研究費審査委員を務めているが、平成二十七年年度委員として表彰を受けた。

学術振興会の科研費助成事業は、基礎から応用まで、全ての分野の学術

本著は日本歯科大学主催の「歯科と認知症」緊急フォーラムを記録した実践の書である。

日本歯科大学 学長 中原 泉



A4判 / カラー / 112頁
本体 3,500円 + 税

歯科と認知症

~歯科医師の認知症対応力向上にむけて~

道川 誠
名古屋市立大学 大学院医学研究科 教授

吉岡 裕雄
日本歯科大学新潟病院 訪問歯科口腔ケア科 助教授

白野 美和
日本歯科大学新潟病院 訪問歯科口腔ケア科 准教授

平野 浩彦
東京都健康長寿医療センター 研究所 専門副部長

福井 智子
杉並区歯科保健医療センター 院長

須田 牧夫
日本歯科大学 講師 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

千葉(新潟)、吉江(新潟)、熊澤(附属病院)

新潟と東京で3教授が最終記念講義

千葉見教授(新潟生命歯学部生物学)の最終記念講義は、八月二十七日午後五時から、アイヴィホールで開催された。演題は「生物学徒が見た鳥類の性形質と生殖戦略」。最終記念講義には多くの教職員、大学院生、学生等が聴講した。千葉教授は、新潟大学理学部生物学卒業、同大学大学院理学研究科修士。本学新潟歯学部生物学助手、講師、助教授、新潟短大教授を経て平成元年教授に就任。学生部長等を歴任した。

吉江紀夫教授(新潟生命歯学部解剖学第二講座)の最終記念講義は、九月三十日午後五時からアイヴィホールで開催された。演題は「味覚器の機能形態を調べてわかったこと」。最終記念講義には多くの教職員、大学院生、学生および同門会員等が聴講した。吉江教授は新潟大学理学部生物学卒業。本学新潟歯学部口腔解剖学教室第二講座助手、講師、助教授を経て、平成十三年教授に就任。十四年間にわたり解剖学第二講座を主宰し、学生部長等を歴任した。

熊澤康雄教授(附属病院口腔外科)の最終記念講義は、十一月十二日午後五時半から生命歯学部富士見ホールで開催された。演題は「口腔外科に学んで」。附属病院口腔外科が主催し、生命歯学部口腔外科に配置換え、平成十三年教授に就任。



△花束を手にする千葉見教授



▷吉江教授に記念品が贈られた

最終記念講義には、多くの教職員、大学院生、学生等が聴講した。熊澤教授は昭和四十七年本学卒業(第六十一回卒)、大学院歯学研究科修了。歯学部口腔外科学教室第二講座助手、講師、助教授を経て、附属病院口腔外科に配置換え、平成十三年教授に就任。

附属病院いびき・睡眠時無呼吸診療センター長等を歴任した。



中原泉理事長・学長より最終記念講義を終えた3教授に記念品が贈呈された(写真右は熊澤教授)

辻村准教授(新潟) デンプラント学会

新潟生命歯学部解剖学第二講座の辻村麻衣子准教授が、二〇一四年の第四十四回日本口腔インプラント学会学術大会で優秀賞に選ばれた。二〇一五年九月二十一日に岡山市で開催された。

第四十五回同学会学術大会において、優秀賞として「デンプラント学会」を受賞した。

辻村准教授が受賞した演題は「骨改造を制御するインプラント周囲細胞の免疫組織化学的検討」。共同研究者は、新潟生命歯学部解剖学第二講座の吉江紀夫教授と先端研究センターの中原賢准教授。

高橋大学院生(新潟) 口腔外科学会

大学院新潟生命歯学研究科の高橋悠大学院生は、十月十六日から十八日まで名古屋で開催された第六十回公益社団法人日本口腔外科学会総会で、優秀ポスター賞をダブル受賞した。高橋大学院生は、顎口腔全身関連治療学(田中彰教授)専攻。

鶴谷助教(新潟) 認定医試験で受賞

新潟病院の鶴谷綾子助教(総合診療科、歯科麻酔・全身管理科)は、二〇一五年秋実施された第四十回日本歯科麻酔学会認定医試験で優秀な成績を収めたため、「松田学術奨励賞」を受賞した。松田学術奨励賞は、同学会の認定医試験合格者



表彰状を手にする鶴谷助教(前列左から3人目)

富田大学院生(新潟) 薬物療法学会で受賞

富田優也大学院生は、六月に鶴見大学で開催された第三十五回日本歯科薬物療法学会での発表が学術奨励賞を受賞した。

前野先生ら(東京) 学会論文賞を二年連続受賞

生命歯学部接着歯科学講座の前野雅彦、山田正先生、奈良陽一郎教授は、平成二十七年日本接着歯学会論文賞を受賞した。同講座の受賞は二年連続、直近六か年で四回目となる。受賞論文は「CAD/CAMセラミックアンレー修復の接着」。

東京・附属病院で中学生が研修

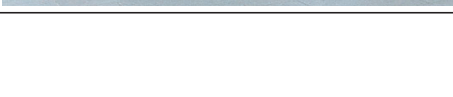
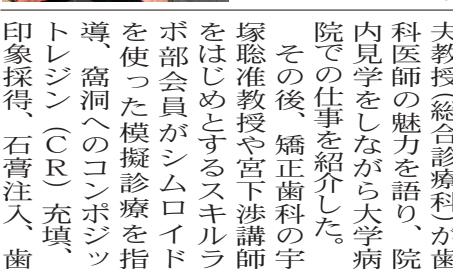
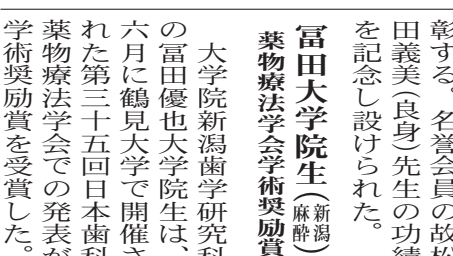
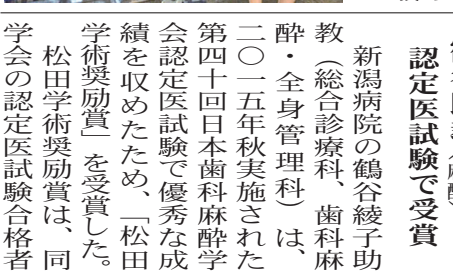
東京都市大学付属中学校(世田谷区)の三年生七名が、八月六日に附属病院でキャリアスタディ「企業研修」を受けた。この企画は同校の進路指導の一環として行われているもので、同校社会人OBが関係する職場を訪問し、働くことの意義や将来の夢について考えることを目的としている。今回は同校OBで本学七十一回卒業の長谷部伸一先生からの紹介で実現した。

慶應義塾普通部(横浜) 歯学部臨床実習室に移り、三グループに分かれシミュロイドを使い、附属病院矯正歯科医局員の指導で、コンボジットレジン(CR)修復の模擬実習を体験した。

「目路はる」は、各界で活躍する同校の卒業生にふれあう機会を生徒に提供する企画で、顎関節症診療センターの原節宏准教授(七十五回卒)が同校の卒業生

また学部見学では、生物実習室でのカエルの解剖標本見学や発生・再生学講座で歯髓細胞を顕微鏡で見る体験をした。同講座では中原貴教授による歯髓バンクの説明に、積極的に関心をもち、質問をする生徒の姿が見られた。

中学生たちがシミュロイドを体験し、歯科医療の現状や本学の歯科医学教育に触れることで、歯科医師を志望する生徒が増えることを期待したい。



日本歯科大学

第60回

富士見祭

Innovation

2015年10月31日(土)~11月1日(日)

第28回 姉妹校交換学生



吊橋で有名なキャピラ川広域公園で



シアトルで開業する大谷先生からお話を伺う



患者ロボット・シムロイドで診療を体験



何かご利益が? パイクプレイス市場の金のブタ



新潟生命歯学部GAKUSHOKUで開かれたウェルカムパーティ

八月三日にUBCの学生たちは新潟へ移動し、その日の夜、ウエルカムパーティが開かれた。四日は関本恒夫新潟生命歯学部長と面会し、修了証書が渡された。その後、医の博物館、ITセンター、先端研究センターなどを見学し、午後から新潟病院での研修を行い、SCRP研究発表会に参加した。五日からは、弥彦観光、新潟市内

日本歯科大学の姉妹校交換学生制度は、国際交流への啓発と国際的視野の涵養を図ること目的として、一九八六年(昭和六十一年)に始まった。毎年三月にアメリカ・ワシントン州シアトルのワシントン大学(UW)と姉妹校であるカナダ・バンクーバーのプリティッシュニコロニア大学(UBC)を、本学の生命歯学部と新潟生命歯学部の五年生から選ばれた六名の学生が訪問している。その後七月下旬にUBCからの訪問学生を受け入れ、相互に研修と親睦を図っている。



東京では羽村章生命歯学部長を訪問



スタンレー・パークのトーテムポール前



UBC歯学部の附属病院を見学する



東京ステーション駅舎の前で記念撮影



Shuler歯学部長やShah先生、UBCのメンバーと

派遣と 総計三九二名に 受入れ

今年三月七日に成田空港を出発し、シアトル・タコマ空港に到着した。シアトル到着後、バイクプレイス市場などを観光した。九日は、二〇一四年十月からUW

に留学していた原田光佑先生(九十三回卒)の紹介で、シアトル市開業の大谷恭史先生の診療所を訪ねた。両先生は、主に日米間の講義や診療システムの違い(北米では歯

科衛生士の業務範囲が日本より広いなど)を話し下さり、学生たちは熱心に聞き、多くの質問を返していた。翌十日はUW歯学部を訪問し、午前中は

強化されているという話を伺った。UWの方々は原田先生に、UWキャンパス内の桜の木がある公園や歴史的建造物である図書館などを

と学生たちの熱い出迎えを受け、その晩、学生宅で歓迎会となった。バンクーバー滞在中、私を含め本学の学生たちは、各々のパートナー宅にホームステイさせていただいた。ホームステイ先では、UBCの学生とご家族から暖かく心のこもったお世話をいただいた。大変お世話になった。

十一日からUBCの研修プログラムが始まった。まず歯内治療学、補綴学と麻酔学の講義に参加した。講義は、教員がユーモアを交え、教員と学生たちが何度も互いに質問し討論する形式だった。また、歯学部附属病院で学部二年生と三年生の病院実習やエックス線撮影室を見学した。病院実習は、学生が患者さんに丁寧に説明して、患者さんをリラックスさせた状態で診療を行っていたのがとても印象的だった。

研修修了後は、UBCの学生たちとスタンレー・パーク、キャピラ川広域公園やセントパトリックステアードなリックスデパートなどを見に行き、二〇一〇年の学生たちの見送りをうけ、二十一日の夕方、無事日本に戻った。

今年三月七日に成田空港を出発し、シアトル・タコマ空港に到着した。シアトル到着後、バイクプレイス市場などを観光した。九日は、二〇一四年十月からUWに留学していた原田光佑先生(九十三回卒)の紹介で、シアトル市開業の大谷恭史先生の診療所を訪ねた。両先生は、主に日米間の講義や診療システムの違い(北米では歯科衛生士の業務範囲が日本より広いなど)を話し下さり、学生たちは熱心に聞き、多くの質問を返していた。翌十日はUW歯学部を訪問し、午前中は強化されているという話を伺った。UWの方々は原田先生に、UWキャンパス内の桜の木がある公園や歴史的建造物である図書館などを

と学生たちの熱い出迎えを受け、その晩、学生宅で歓迎会となった。バンクーバー滞在中、私を含め本学の学生たちは、各々のパートナー宅にホームステイさせていただいた。ホームステイ先では、UBCの学生とご家族から暖かく心のこもったお世話をいただいた。大変お世話になった。

十一日からUBCの研修プログラムが始まった。まず歯内治療学、補綴学と麻酔学の講義に参加した。講義は、教員がユーモアを交え、教員と学生たちが何度も互いに質問し討論する形式だった。また、歯学部附属病院で学部二年生と三年生の病院実習やエックス線撮影室を見学した。病院実習は、学生が患者さんに丁寧に説明して、患者さんをリラックスさせた状態で診療を行っていたのがとても印象的だった。

研修修了後は、UBCの学生たちとスタンレー・パーク、キャピラ川広域公園やセントパトリックステアードなリックスデパートなどを見に行き、二〇一〇年の学生たちの見送りをうけ、二十一日の夕方、無事日本に戻った。

帰国してから四か月後の七月二十七日にUBCの学生たちが成田空港に到着し、再会を喜んだ。二十八日の午前中、UBCの学生たちは生命歯学部の見学し、午後からは羽村章生命歯学部長主催の歓迎夕食会に招待された。二十九日には附属病院やGIC工場を、三十一日には口腔リハビリテーション多摩クリニックを見学した。さらに八月一日に東京デンタルショーに参加した。また鎌倉、浅草や都内の観光にも出かけ、日本文化を大いに満喫した。

交換学生

二〇一五年度姉妹校交換学生は次の通り。
(日本歯科大学)
生命歯学部 駒津 匡二
清水 美透
本多 令奈
新潟生命歯学部
加羽澤侑以
武内柚香里
谷中 航
(プリティッシュニコロニア大学)
Mr.Scott Matheson
Mr.Jay Lam
Mr.Ebin Thaliath
Ms.Liora Berant
Ms.Carlee Beuk
Ms.Fiona Roth
(同行教員)
佐藤義英(新潟生命歯学部生理学講座准教授)

での茶道、新潟祭りの民謡流し、市民御輿と花火を経験した。そして十日に別れを惜しみつつ、カナダへ帰国した。本学の学生たちは、バンクーバーに着いた当初は緊張している様子だったが、徐々にUBCの学生に積極的に話しかけるようになり、適応力の速さは素晴らしい。今回の交換留学により、我々は大変貴重な経験をさせていただいた。学生たちは今回の経験を基に、将来、国際性豊かな視野の広い歯科医師になると思う。最後に姉妹校交換学生プログラム実施にご尽力いただきました関係各位に、心より御礼を申し上げます。
(同行教員 佐藤義英)

東京都心のフットサル・コート

飯田橋・神楽坂上フィールド竣工

二〇一五年六月に着工した屋外運動施設・神楽坂上フィールドは、五か月間の工期を経て、十月に竣工した。フィールドにはテニスコート兼用の

フットサルコート、一周約百メートルのランニングコースが整備され、木造平屋建てのクラブハウスが完成した。本学関係者と工事関係者が参列して、十月二十七日午前十一時より竣工式が挙行された。木の香も新しいクラブハウス内では、フィールド隣の筑土八幡神社の神職により神事が執り行われた。

竣工式のと、中原泉理事長・学長は、「工期が短かったにも関わらず、立派な運動施設を作っていただき設計施工にあられたみなさまに深く感謝を申し上げる。都内の真ん中にできた運動場なので、本学の学生に大いに活用してもらいたい」と挨拶した。



神前に竣工を奉告する中原理事長・学長



完成したクラブハウスとフィールド

▼フットサル(FUTSAL)は、ミニ・サッカーとも呼ばれる。基本的には室内で行われる。競技者は五人以下で、そのうち一人はゴールキーパー。一九八九年に国際サッカー連盟(FIFA)の所管となり、初の世界大会をオランダで開催した。一九九四年には世界共通の統一ルールをまとめ、コートの大きさやラインの幅などについて細かく規定している。

キャンパスからの提言 新潟・学生が最優秀賞受賞

大学生による新潟市への政策提言発表会(キャンパスからの提言フォーラム)が十一月二十九日に新潟市役所で開催された。これは周辺の十三大学・短大で構成する大学連携協議会と新潟市が企画したもので、四大学五グループが参加した。新潟ならではの特色を生かした雪遊びイベントなどの実施、あるいは女性の社会進出、教育等についてそれぞれ発表した。

新潟生命歯学部の新潟市役所では、「にいがたトモダチ倍増お宝さがし大作戦」と題して、健康マイレージなどを活用しながら、多くの世代が参加できる「宝探しイベント」の実施を提案した。多世代を地域の茶の間に定着させる、地域への愛着を育むこと、子どもから高齢者まで幅広い世代が交流できるように企画したことがある。

このフォーラムについては、十一月三十日の朝日新聞新潟版、十二月五日の新潟日報に掲載された。



新潟市の役職者らを前に講演する新潟生命歯学部の学生。地域に根ざしたアイデアとプレゼンテーション能力が高く評価された。

中山 創立55周年を祝す

日本歯科大学は現在、世界十五か国十八校と姉妹校協定を締結し、学術交流を行っている。台湾の中山医学大学とは、一九七一年に本学第一番目に姉妹校協定を結んだ。校友である故周汝川先生(科)が台中市を訪れた。

中山医学大学を視察し、生が創設した同大学は、二〇一五年で創立五十五周年を迎え、記念式典参列のため、新潟生命歯学部、関本恒夫歯学部長と柳井智恵教授(附属病院口腔インプラント診療科)が台中市を訪れた。

同日の夜、市内の豪華宴会会館で開催された記念式典では、関本歯学部部長が記念品として、中原実名譽学長の油彩作品の複製画三点を周明仁理事長らに手渡した。周明仁理事長は、口腔リハビリテーションのパイオニアである日本歯科大で逝去された。

中山医学大学は、本学二十九回卒の周汝川先生が、一九六一年に前身の「中山牙科専門学校」を開校。「中山医科専門学校」「中山医学院」と改称し、二〇〇一年に現在の校名に改称した。医学部、口腔学部(歯学部)、医学技術学部、健康管理学部、医学人文社会学部などを有する台湾では最大の医学大学である。創立者の周汝川先生は二〇一二年に九十五歳で逝去された。

中山医学大学に中原実名譽学長の絵画作品「猫の子」「魚の説」「兜の昇天」の複製画を贈呈した。左から6人目・関本歯学部部長、右端・柳井智恵教授



記念式典で来賓祝辞を述べる関本恒夫新潟生命歯学部部長

日本の歯科界から唯一の来賓として招かれた関本歯学部部長は、十一月八日に羽田を出発し、同日の午後オニアである日本歯科大



中山医学大学に中原実名譽学長の絵画作品「猫の子」「魚の説」「兜の昇天」の複製画を贈呈した。左から6人目・関本歯学部部長、右端・柳井智恵教授

訃報

増原泰三 名誉教授

本学名誉教授の増原泰三先生は、十月二十日逝去された。享年九十歳。増原名誉教授は、昭和二十一年北海道大学農学部卒業。同四十九年に本学新潟歯学部歯科薬理学教室教授に就任、平成七年三月まで同講座を二十一年間にわたり主宰した。新潟短期大学学長、本学歯学会会長などを歴任した。

鈴木雄士 名誉教授

本学名誉教授の鈴木雄士先生は十月七日逝去された。享年七十九歳。鈴木名誉教授は昭和三十六年本学卒業(第五十回卒)。大学院歯学研究科修了後、歯学部口腔生理

附属病院裏から出火 全員避難する……

十一月十二日の木曜日、午前十二時四十分ごろ、附属病院裏の木造三階建ての事務所から出火。火の手が病院側に及んだため、三代冬彦病院長は、診療を中止し、全員一階ロビーに避難するよう指示した。

再生医療等に対応する

ため、九月初旬より改修工事ですすめられていた、生命歯学部の細胞培養加工施設が、十一月二十日に竣工した。

東京

細胞培養加工施設 専用施設を改修整備

同施設には、100周年記念館地下一階の共同利用研究所内の八十二㎡(二十五坪)に、専用の

操作室、細胞保存室等が整備された。

なお、十二月六日(日)の第七回認定医講習会第一期の「歯髓細胞バンク認定医講習会」がすべて終了した。参加者総数は一〇三六名で認定医登録者数は九一四名だった。

本院患者は東京新宿メディカルセンター(旧厚生年金病院)に移送し、外来患者は臭いの少ない診療室で緊急対応を行った。出火原因は不明。

分には延焼防止となったが、三階と四階の教室の窓ガラスにひびが入った。病院内に煙が入り込み、異臭を放つたため、鎮火後も診療ができず、入

院患者は東京新宿メディカルセンター(旧厚生年金病院)に移送し、外来患者は臭いの少ない診療室で緊急対応を行った。出火原因は不明。

院患者は東京新宿メディカルセンター(旧厚生年金病院)に移送し、外来患者は臭いの少ない診療室で緊急対応を行った。出火原因は不明。

院患者は東京新宿メディカルセンター(旧厚生年金病院)に移送し、外来患者は臭いの少ない診療室で緊急対応を行った。出火原因は不明。

院患者は東京新宿メディカルセンター(旧厚生年金病院)に移送し、外来患者は臭いの少ない診療室で緊急対応を行った。出火原因は不明。



左は中操作室、右はBグレード安全キャビネット。管理区域Aグレードの清潔な作業室。